

## 「セディア HAL/BRP」試薬の基礎的検討

竹内 涼, 明堂 典弘, 奥野 美帆, 川角 修司 ((株)サカイ生化学研究所 検査部)

【目的】今回、第一化学薬品株式会社より新しく発売された、セディア HAL/BRP 試薬の基礎的検討を行ったので報告する。【方法及び結果】検討内容は日立 7170s 形、日立 7180 形自動分析装置を使用し、臨床検体を用いて大日本製薬社製酵素免疫測定法との相関性を検討した他、再現性、直線性、共存物質の影響、プロブコンタミの確認を行った。同時再現性について管理用コントロール 3 濃度及びプール血清 2 濃度を用いていずれも 20 回測定を行い、CV はハロペリドール、プロムペリドール共に低値プール血清 (2.31 ~ 2.74ng/ml) にて 10.74~ 14.57% と高かったが、他の 4 種の血清では CV 1.50~ 5.22% と非常に良好な結果が得られた。共存物質の影響についてはビリルビンで 20.0mg/dl、ヘモグロビン 500mg/dl、乳ビ 3000ホルマジン濁度まで影響はみられなかった。大日本製薬社製酵素免疫測定法との相関性については、ハロペリドール (n=38) では 7170s 形で  $r=0.8981Q$   $Y=0.8354X-2.29$  7180 形で  $r=0.9034$   $Y=0.8352X-1.52$  となり、プロムペリドール (n=8) では 7170s 形で  $r=0.918Q$   $Y=0.6992X-0.39$  7180 形で  $r=0.9$

022  $Y=0.6990X+0.57$  といずれもセディア HAL/BRP が低値に出る傾向にあった。高値キャリブレーターを 1Q 段階希釈して行った希釈直線性では、ハロペリドールは各希釈段階における期待値に対しいずれも相対比が 90~ 102% と良好で、プロムペリドールについては 1/10~ 3/10 希釈では 80% 代を示すが、4/10 以上では 90~ 100% を示した。プロブコンタミについては LP(a)、FRA、CH5Q、ADA、THEQ、DIG、IR、HA との試験を行ったがいずれもアルカリ洗浄にてコンタミは回避でき、各項目へ与える影響は 3.0% 未満、受ける影響は 5.0% 未満と良好な結果を得た。日差再現性については、ハロペリドール、プロムペリドール共に日々ブランクをとることで、7170s 形で 7日間、7180 形 8日間安定であった。【まとめ】今回新しく発売されたセディア HAL/BRP 試薬が、これまで多点検量線の必要な酵素免疫測定法によって測定を行ってきたハロペリドール、プロムペリドールの測定を迅速かつ精度良く測定することを可能にした事は、非常に高い評価が得られると思う。  
連絡先：072-255-1238